

合奏等におけるコロナウイルス感染防止対策

<仙台ニューフィル>

・合奏実施の判断

- 市民センター等の会場から活動の自粛要請があった時は活動を休止する。ただし、突発的な感染拡大が発生した場合は、行政等の判断を待たずに活動を休止する。

・合奏に臨む前に

- 発熱、咳・くしゃみ等の症状があるときは参加しない。（同居の家族に熱・症状がある場合も同様）また、各自毎日検温し、当日発熱していなくても、練習日前数日間に発熱が確認された場合は参加しない。
- 継続的に多数の感染者が確認されている都道府県を、合奏日前一週間以内に旅行等をした場合は、直後の合奏に参加しない。
- 継続的に多数の感染者が確認されている都道府県からの旅行者と、合奏日前一週間以内に飲食等をした場合は、直後の合奏に参加しない。

・会場での留意事項

- 会場に入る前に、手指消毒剤で除菌する。（市民センターで用意する分とは別途、団でも消毒剤を用意する。）また、ホール入室前、準備後、休憩時、片付け後は手洗いを心がける。
- 合奏時は入り口の出欠表に記入する。分奏時は、参加者についてパートリーダーが記録・保管する。
- 会場では3密にならないよう心がけ、団員同士の会話は必要最小限にとどめ、できるだけ小声で行う。団内の連絡事項はメールなどで済ませる。

・合奏時の留意事項

- 演奏者の間隔を開いて席を配置する。（可能であれば指揮者、奏者間隔は2m空ける。）弦楽器についても、譜面台を1人1台ずつ使用する。（そのため譜面台は各自持参）
- 合奏等への支障の無い範囲で窓及び出入り口を常時開放する。また、30分に一回窓・扉を全開して換気する。

- 演奏中、指揮者、弦・打奏者は常時マスクを着用する。
- 管楽器奏者も演奏時以外はマスクを着用する。
- 管楽器奏者は吸水性シートあるいはキッチンペーパーなどを持参し、飛沫対策や楽器からの水滴を周りに拡散しないよう各自対応する。（練習後は各自持ち帰る。）モップがけは管楽器エリアの全てを行う。
- 合奏中の私語は当然として、パート内指示も合奏中は行わず、合奏後パートリーダーから、メールなどで指示する。
- 降り番の奏者はホールに入らない。

・各パートの対応

- 各楽器の特性に合わせた感染対策をおこなう。

[フルートの例]

- (1) 正面、譜面台の後ろにアクリルの遮音板を設置する。
- (2) 楽器内に溜まった水滴は、床に垂らさずガーゼやハンカチ等に染み込ませる。

[クラリネットの例]

- (1) 床にキッチンペーパーなど敷いて吸収させ、終了後ポリ袋に入れて持ち帰る。
- (2) こまめにスワブを通しできるだけ床に滴下させない。
- (3) トーンホールにたまった水滴は吹き飛ばさずに吸水ペーパーで吸い取る。
- (4) スワブとクリーニングクロスは練習の都度自宅で入念に洗う。
- (5) 使用したマウスピースとリードも練習の都度自宅で入念に洗う。

[金管の例]

- (1) マウスピースのみでのバジングは行わない。
- (2) 水抜きは静かにいき、飛散に留意する。